

営農技術情報

—秋まき小麦 9月号—

平成29年 8月29日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524
JA道北なよろ TEL01655-3-2521

～ は種時期に応じた適切な、は種作業を！ ～

1 排水対策の実施

排水改善を図ることで、①停滞水および雪腐病等による株の枯死を防止、②融雪後のほ場の乾燥および地温上昇を早め、越冬後の生育を促進、③追肥の効果を高めて過剰施肥を回避、等につながります。

は種前に心土破碎、サブソイラ等による排水対策を実施するようにしましょう。

2 は種時期とは種量について

道北地域における「きたほなみ」の越冬前の生育の目標は、「葉数 5.7～6.4 葉、茎数 1,000 本/m²」で、積算温度では「520～640℃」を確保することが目安となります。近年の気象変化も加味すると、名寄地域における「きたほなみ」のは種適期は9月9日～15日です。

は種時期の天候不順や他の作業との競合により、適期は種が難しい年もあることから、早めには種を行うケースも増えていますが、早まきを行う場合は、は種量をできるだけ少なくし、越冬前に過繁茂となるのを避けましょう。

表1 は種時期とは種量の目安(越冬前茎数 1,000 本/m²程度が目標！)

は種期	早まき 9月1～8日	は種適期 9月9～15日	晚まき 9月16日～
は種量	4.5～6kg/10a (100～140粒/m ²)	6～8kg/10a (140～170粒/m ²)	8～11kg/10a (170～250粒/m ²)

※種子千粒重 40g、出芽率 90%で算出。

※山間地や傾斜地、砕土整地が悪い場合は、は種量を 10～20%程度増やす。

3 は種深度

は種深度は 2.5～3cm 程度が適正です。「深まき」は、発芽不良や二段根の発生を引き起こし、分けつの発生も悪くなります(図1)。作業開始時には必ず、は種深度を確認しましょう。特に、土壌水分が多いときや、ロータリー耕等により砕土が細かくなると、は種機の自重による「沈み込み」が大きくなりやすいですので、注意して下さい。

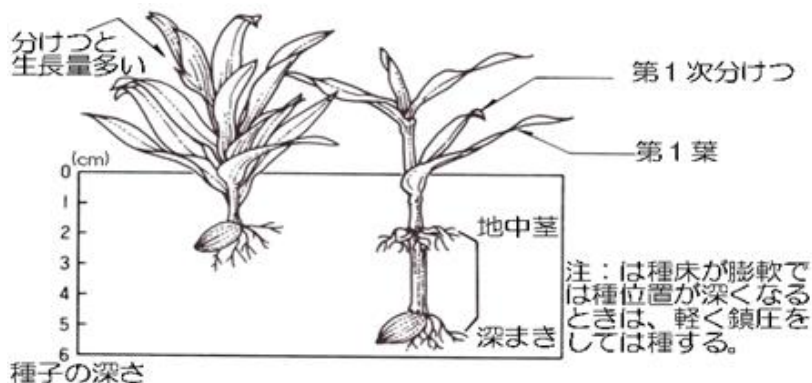


図1 種子の深さと生育の関係(北海道作物管理全書より)

4 pHの矯正および施肥(基肥)について

pHが低いと養分の吸収が悪くなり、特に、越冬後の生育が抑制されるおそれがあります。予めpHが5.5~6.0程度になるように矯正しましょう。

基肥窒素量は4kg/10aを基本としますが、地力や前作を考慮した上で増減するようにして下さい。なお、銅の欠乏症が懸念されるほ場では、銅入りの肥料銘柄を使用しましょう。

【秋まき小麦の施肥(基肥)事例】

銘柄	施肥量	施用量 (kg/10a)		
		窒素	リン酸	カリ
BB121Cu※	40kg/10a	4.0	8.0	4.0
BB121	40kg/10a	4.0	8.0	4.0
BB082	40kg/10a	4.0	7.2	4.8
BB086	40kg/10a	4.0	7.2	2.4

※銅入り肥料銘柄

5 雑草対策

イネ科の雑草(スズメノカタビラ等)やイヌカミツレ・レッドトップなど難防除雑草に対しては、春以降の茎葉処理では、十分な効果が得られないおそれがあります。雑草が多いほ場では、は種後の土壌処理を必ず実施するようにしましょう。散布する際は、使用基準範囲内の高い薬量で散布するようにしましょう。

【秋まき小麦の除草剤例】(登録内容は平成29年8月28日時点)

薬剤名	使用時期	使用量 (ml/10a)	使用回数	対象雑草
ガレス乳剤	は種後~出芽前 (雑草発生前)	200~250	1回	畑地1年生雑草
	小麦出芽後~出芽揃期 (雑草発生前)	150~250		
	小麦1~3葉期 (雑草発生前~発生始期)	100~150		
ガルシアフロアブル	は種後~出芽前 (雑草発生前)	150~250	1回	1年生雑草
	出芽直前~小麦3葉期 (雑草発生前~発生始期)	100~200		
ムギレンジャー乳剤	は種後~出芽前 (雑草発生前)	300~600	1回	1年生雑草
エコパートフロアブル	小麦2~4葉期 (広葉雑草2~4葉期)	50~75	2回	1年生広葉雑草

農薬の安全使用について

- 農薬散布に当たり、近接する作物へ飛散しないように十分注意しましょう!
- 農薬は必ずラベルを読み、使用量・時期・回数を確認し適正に使用しましょう!

農作業安全

- 収穫等、作業が忙しくなる時期ですが、休憩をとりながらなるべく無理のない作業を行なうようにして下さい。
- 作業機を始動する際は、声かけやクラクション等により、周囲への安全確認を行いましょう。